

学生の学習意欲を促進する授業設計

■講師



川瀬 和也(徳島大学・総合教育センター・助教)

東京大学文学部卒業、同大学院人文社会系研究科博士課程哲学専門分野を単位取得満期退学。在学中に、「東京大学フューチャー・ファカルティ・プログラム(東大FFP)」を1期生として履修し、高等教育機関における教育方法とファカルティ・ディベロップメントの基礎を学ぶ。東京大学・大学総合教育センターにて特任研究員として東大 FFP の運営や、MOOC 講座「インタラクティブ・ティーチング」の開発に携わる。2014年11月より現職。全学FDの運営を通じて、徳島大学における教育の改善に取り組んでいる。

■プログラム概要

学生の学習意欲を引き出すために、皆さんはどんな工夫をされていますか。学生の学習意欲は、学習成果に直結します。また、アクティブ・ラーニング型授業への参加や、自宅での学修を促すためにも、学生の学習意欲を高めることは不可欠です。この学習意欲に、授業を通して、教員からどのような働きかけができるのでしょうか。また、どのような指針をもって、授業を設計すればよいのでしょうか。

このプログラムでは、「動機付け」に関する様々な理論の中で、「授業を通じて学習意欲を高める」という目的のために最も参照しやすい理論として、「価値」と「予期」に基づく動機づけの理論を紹介します。また、それを踏まえて、実際に受講者の皆さん自身の授業を改善するための工夫について考えます。受講者の皆さんには、実践や悩みを共有し、学び続けるためのネットワークを構築していただくために、グループワークへの積極的な参加を期待しています。

■主な受講対象

- ・学生の学習意欲を引き出す授業に取り組んでいる／取り組みたいと考えている教員
- ・アクティブ・ラーニングや自宅学習への取り組みを促したい教員
- ・他の教員と授業実践における工夫や悩みを共有したい教員
- ・理論に裏付けられた教育実践に取り組みたい教員

■本プログラムの到達目標

1. 学生の学習意欲を高める方策について、「価値」と「期待」という言葉を用いて説明できる。
2. 自身の授業に取り入れたい、学生の学習意欲を高めるための工夫を説明できる。
3. 学習科学の知見を授業改善に役立てるためのコツを説明できる。
4. ワークショップ終了後も学び続けるためのネットワークを作ることができる。

■日時・会場

日 時 : 平成27年8月26日(水)10:00~12:00
会 場 : 愛媛大学 城北キャンパス